

# 特集「社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス」の編集にあたって

市川 裕介<sup>1,a)</sup>

2019年12月に初めて報告された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックに伴う外出自粛など、人々の行動が制約された結果、テレワークを支えるためのICTサービスが急速に普及し、これまでのコラボレーション技術、およびネットワークサービスに関する研究成果により実現されるリモート社会の価値が認識されるものとなった。コロナ禍が起こる以前から、日本政府は「Society5.0」を提唱し、その中で多様な働き方を実現するためテレワークの普及を推進してきたが、その普及が進む一方で、ICTリテラシーの格差、セキュリティの問題、情報化の壁など、リモート社会の新たな課題も顕在化することとなった。経済発展と社会的課題の解決の両立の実現に向けては、これらの課題を解決するために、コラボレーション技術とネットワークサービス技術のさらなる進化の重要性がさらに増すものと考えられる。

このような状況認識に基づき、情報処理学会論文誌において「社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号を企画した。本特集において時宜を得て迅速に関連する研究論文を一括掲載することにより、社会に成果を公開・共有し、グループウェアとネットワークサービスに関する研究のいっそうの発展に寄与することを目指した。

本特集号には、31件の論文が投稿された。2021年4月に第1回編集委員会を開催し、投稿論文が特集号のテーマに合致しているか審議した。同年6月に第2回編集委員会、9月に第3回編集委員会を開催して査読報告を審議した。その過程で残念ながら1件が著者から取り下げとなり、最終的に13件が採録、17件が不再録と判定された。採録率は42%となった。このうち2件は英文論文、内1件はテクニカルノートである。

採録論文の内容はコラボレーション技術やネットワークサービスの最先端の応用に関するものが中心である。そこに省エネルギーや医療・福祉支援、販売業務支援に関する論文も加わったことで、文字どおり「社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号としての役割を果たすことができたと考えている。

採録された論文はいずれも優れた内容を有しており、これからのグループウェアとネットワークサービスの研究開発の発展に寄与することを期待している。今回残念ながら不採録になった論文の中にも興味深いアイデアを提案しているものが多かった。編集委員会では、今後の再投稿を期待し、丁寧にコメントを返すことを心掛けた。

最後に本特集号の編集にあたり、優れた論文を投稿していただいたすべての著者の貢献にお礼を申し上げたい。また、予定どおり発刊できたのは、多忙の中、短期間の査読に協力いただいた査読者の方々、伊藤淳子、東孝文、両幹事をはじめとする編集委員、学会関係者の多大なご尽力のおかげであり、ここに心から感謝申し上げたい。

「社会課題を解決するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集委員長  
市川裕介 (日本電信電話)
- 幹事  
伊藤淳子 (和歌山大学)  
東 孝文 (東京電機大学)
- 編集委員  
阿倍博信 (東京電機大学)、市野順子 (東京都市大学)、市村 哲 (大妻女子大学)、井上亮文 (東京工科大学)、井上智雄 (筑波大学)、江木啓訓 (電気通信大学)、大平雅雄 (和歌山大学)、岡嶋成司 (富士通)、岡田謙一 (慶應義塾大学)、岡本昌之 (トヨタ自動車)、金井秀明 (JAIST)、金子 聡 (法政大学)、川口信隆 (日立製作所)、爰川知宏 (東京国際工科専門職大学)、小林稔 (明治大学)、斉藤典明 (東京通信大学)、塩澤秀和 (玉川大学)、高田秀志 (立命館大学)、角田啓介 (デロイト トーマツ コンサルティング)、樫山淳雄 (東京学芸大学)、服部 哲 (駒澤大学)、福島 拓 (大阪工業大学)、三樹弘之 (沖コンサルティングソリューションズ)、宮田章裕 (日本大学)、由井蘭隆也 (JAIST)、湯澤秀人 (富士フイルムビジネスイノベーション)、吉野 孝 (和歌山大学)

<sup>1</sup> NTT 人間情報研究所  
NTT Human Informatics Laboratories

a) yusuke.ichikawa.rt@hco.ntt.co.jp